

宝塚市北部西谷を歩く

第 62 回武庫川エコハイク
2012. 6. 9 エコグループ・武庫川

武庫川 全長 65km、流域面積 500km²。篠山市、能勢町、三田市、神戸市北区、西宮市、宝塚市、伊丹市、尼崎市の 7 市 1 町を流域に持ち県内有数の人口・資産を抱える 2 級河川である。「武庫川」の名は下流の右岸が武庫郡であり、武庫郡は日本書紀にある「務古水門（むこみなど）」からとか、浪速から見て「向こう」にあるからとか諸説がある。

2 級河川だが流域に阪神地帯を抱え流域人口では全国第 10 位である。「阪神間の母なる川」である。上流から三田盆地までは緩やかに流れ、中流には武庫川渓谷で V 字谷になる一風変わった川である。この渓谷は六甲山の隆起とともに武庫川に洗刻された先行河川である。ここに県営ダムを作る計画があったが豊かな自然環境を破壊することで反対する市民運動が持ち上がり、県は流域住民を含めて武庫川流域委員会を設置して 2 年半にわたり協議した結果、平成 22(2010)年 10 月、ダムは検討に時間がかかることから、20 年間はダムによらず流域対策と堤防強化、河道掘削で治水対策を実施することとなった。

武庫川渓谷 神戸市北区道場地区から西宮市生瀬地区までの全長 14km の武庫川渓谷のうち、特に武田尾から生瀬までの 7km を武田尾渓谷と呼び、武庫川に沿って旧国鉄福知山線廃線跡があり、四季折々の景観の美しさ、生物の多様性から都心に近いハイキングコースとして市民に親しまれている。ほかの河川と異なり、上流にあるはずの渓谷が下流沖積平野の直上にある。

宝塚市西谷 宝塚市北部長尾山山系の北側に位置し、宝塚市の 2/3 の面積を占め、豊かな自然が残る。猪名川と武庫川(支流)の上流に広がる谷合いの村川辺郡西谷、中谷(現猪名川町)、東谷(現川西市)の一部である。昭和 30(1955)年 4 月西谷村は宝塚市と合併した。**旧国鉄武田尾駅** 旧国鉄武田尾駅は阪鶴鉄道の駅として有馬口駅(現生瀬駅)～三田駅間の開通とともに明治 32(1899)年開設、明治 40(1907)年国鉄福知山線武田尾駅となる。武田尾温泉、また旧西谷村の玄関口として開設され、湯治客、西谷村の農林産物の出荷駅として賑わった。

今は福知山線の複線電化に伴い新駅が旧線と直角に交わる形で設置され旧駅舎、プラットフォームなどは県道(市道)になっている。現在の温泉橋のところに改札口があり、「歓迎看板」が残っている。かつては上下の列車がここですれちがっていた。

大原野 古く京都西山の大原野から移住したと伝えられる。字名を見ると京都大原野と同じものが多い。西宮神社の十日戎で売られる福箕はこの地区で作られる。

西谷支所前 バス停西谷支所前には、市役所西谷サービスセンター、西谷夢市場、西谷児童館、西谷会館が集積している。西谷夢市場は西谷地区の農産物などの直売所である。

大原野素盞鳴神社 素盞鳴命と天満天神を祭神とする。西谷地区の 5 つの素盞鳴神社のひとつ。社叢が宝塚市天然記念物。杉の巨木 2 本、シラカシアラカシ群落、ヒノキーシラカシ群落、ヒノキーモミ群落がある珍しい植物相。

宝山寺 開基は法道上人と伝えられる。法道上人はインドからの渡来僧で各地で空中飛行などの神通力を発したといわれ、多くの寺院を開いたといわれる。本尊は十一面観音菩薩であるが、この十一面観音には次の伝承がある。むかし紀州の海岸に祀られていたが、ある時大津波に襲われ村とともにお寺も流失してしまった。村人たちは山に難を逃れ助かったが、これはこの観音様が身代わりに立たれたと信じていた。その数ヶ月後鳴尾浜で黄金色に輝く十一面観音像が見つかり、大切にしていたところ、大きな白鳥が現れ観音さまを乗せて北方清荒神まで飛んだ。その後また白鳥が現れて北の古宝山まで飛んでそこで待ち受けていた白馬が宝山寺まで送ったという。寺の行事ケトロン祭はこの説話をテーマにされており、市指定無形文化財である。

天狗松 標高 339m。三等三角点。

布見竜王山 標高 367.8m。地蔵山岳ともいう、雨乞いの山である。西谷には三つの竜王山がある。布見竜王山、大原野竜王山、長谷竜王山(標高 279m)。

県立西谷の森公園 兵庫県の CSR 事業施設の一つ。平成 20 年 7 月にオープンした里地里山公園。面積約 100 ヘクタール。東の谷エリア、西の谷エリア、森林エリアから構成され全長約 8km の散策路がある。展望台(標高 350m)からの 360 度の展望はすばらしい。CSR 事業: Culture、Sport、Recreation のための活動の場の提供し活動を促進する事業)

丸山湿原群 宝塚市境野にある丸山(標高 328.4m)の西側にある湿原群の総称で付近には大小複数の湿原が点在している。最も面積の大きな湿原が通称「丸山第 1 湿原」と呼ぶ。湿原の面積、出現植物数、植物群落タイプ等からみても兵庫県一の湧水湿原である。丸山湿原付近一帯は、西谷地域でも特に荒地(ズリ)が多い。湿原集水域の山は、古くから地元集落の玉瀬・境野・大原野の共有財産(持山)として、また一部は、個人の山として管理・利用されてきた。これらの山は自家用の柴・マツタケ採集で利用され、特に良いマツタケ山であった。昭和 64(1989)年宝塚新都市開発構想を県が策定。2005(平成 17)年兵庫県が先行取得地里山林整備事業で遊歩道など工事開始。2006 年「丸山湿原群保全の会」発足、保全活動はじまる。

大岩岳 千苺水源池の東側に位置する。標高 384m、二等三角点。

羽束川 武庫川最大の支流。国土地理院地図では「波豆川」、兵庫県は「羽束川」。すぐ上流に千苺水源池がある。東山橋下流で武庫川に合流する。

千苺水源池 明治の初め、神戸市ではコレラが毎年のように流行し、この対策のため水道の必要性が増大し、明治 30(1887)年水道工事が開始され、30 年代に布引貯水池、奥平野浄水場、烏原貯水池が完成した。さらに大正 8(1919)年、千苺貯水池が完成した。池の面積 112 万 m²(満水時)、貯水量 1,160 万 m³、堰堤高さ 42m、同長さ 106m、池の周囲 23km。

千苺浄水場 神戸市北区の開発や住宅団地の建設などによる人口の増加にあわせて、千苺水源池を水源として、昭和 42(1967)年 3 月に創設された北神水道の浄水場。面積 20,000m²、1 日当たり浄水能力 108,000m³、太陽光発電(95kw)、水力発電(180kw)にも注力して浄水場使用電力の約 8%を賄い環境にも配慮している。